

社会人のための情報システム誌
— 経営近代化のシステム研究 —

Computer Report 2

目 次

2011 No.677

3 はじめの言葉

4 企業文化が色濃く反映される情報システムの有り様 田原文夫

企業等ユーザー組織には文化がある。企業文化などと言い表される。企業合併などで「カルチャーショックを受けた」などと表現される場合もある。情報システム作りにもまた、企業文化が反映される。経営統合、事業統合が行われても、情報システム統合の作業が遅れるという問題が表面化することがある。時には、それが事件となることもある。その原因は「互いの企業文化の衝突だ」と分析されることもある。また、情報システム作りの理念の問題だと指摘する声もある。昨今、クラウドサービスが標榜されるようになって、情報システムそのものの所有を否定する論まで出てきて、情報システムの有り様をめぐる議論はますます熱を帯びてきている。しかし忘れてはならないのは、問題はフレームワークとしての情報システムではなく、企業等ユーザー組織体が必要とする情報および情報処理を取り扱うことが本質だということである。

1 1 情報社会を考える その5

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか 編集部

ツイッターへの書き込みで国会議員になったとか、大臣にまでなったとかいう仁が現れれば、一方では、既存マスコミからの取材要請にはケンモホロロ、鼻にも掛けなかった小沢一郎元民主党党首が、インターネットメディアに長時間ライブ登場するなど、記者クラブ制度でノウノウとしてきた大手マスコミを牽制している。マスコミメディアを取材される側が選択する社会になった。まさに、情報社会とは何かをさぐりつつ、我々の行動様式自体が変わりつつあることを象徴しているようだ。併せて、国を変えるには、我々自身が変わらなくてはならないだろうし、国会議員にも変わってもらわなくてはならない。当然、税金の使い方、使い道も変えてもらわなくてはならない。できれば、将来的に国の輸出産業に成長する可能性がある分野への税金投入をしてもらいたい。情報社会とは、我々国民に繁栄と幸せをもたらすものでなくてはならない。そういう社会の創造を叶えるコンピュータ活用を考える。それがコンピュータサイエンスの原点であると思う。

1 5 本物のクラウドサービスの確認と課金設定の仕方／され方 aism 何故クラウドサービスは従量課金が可能か

クラウドサービスが普及しているという喧伝から、実際のクラウドシステムの導入事例を見てみると、改めて「クラウドサービス／クラウドコンピューティングって何だ」とい

う気がしてくる。酷いものになると、単なるアウトソーシングサービス、データセンターサービスをクラウドサービス／プライベートクラウドコンピューティングだといっているに過ぎないものもある。まあ、この業界の特有の「横並び戦術」はいつものことだが、将来的な成長性が認められるものから、期待感のなさそうなものまでいろいろあるようだ。改めて課金問題の本質を探るとともに、クラウドサービスの基本ポイントとは何かを検証してもらった。aism ネットクラブで討議は、アウトソーシングサービスの活用全般を今一度棚卸し直してみることも含めた議論に発展してきた。

20 クラウド時代のシステム運営

どこまで雲を信じるか まさかに備えるオペレータ教育 雲隠才蔵

クラウド時代のデータセンターの教育プラン その1

〔ポイント〕データセンターのオペレーション作業は、いくつかの理由から一般の情報システム部門の他の仕事とは区別されてきた経緯がある。したがって、データセンターオペレーションに関わる人材教育計画を立てる際には、オペレーション業務独特のスケジュール、これまでの経験、実際の作業内容において必要とされる技能等について、慎重に考慮しておかなければならない。ここでは、データセンターオペレーションに関わる教育固有の特徴について言及し、本格的なクラウドコンピューティング時代のデータセンター運営における人材育成について述べてみたい。

限りなくオペレーション作業をアウトソーシング化する傾向にあるが、ある日突然、手放したはずのオペレーション作業を自社運営に戻さなくてはならない事態に陥るかもしれない。そのためのリスクマネジメントであり、転ばぬ先の杖としたい。

25 人材紹介業界の秘話と悲話

人件費関税のない不平等通商条約の狭間 Dr. ベスト

第六話 「腐っても鯛」と胸を張れるか

人件費という最大の物価問題が、すべてのビジネス競争力を凌駕し左右しているというのが、今世紀に入ってから大きな特徴だ。情報処理技術者の人材調達／人材紹介事業でも、それが最大のファクターであり、最重要ポイントになっている。技術力、仕事の出来映え、作業品質などよりも最優先されている。ユーザー組織が何故、その総体である日本国が何故、必要とされる人材育成を自らの手で行わないのかというと、実に、この物価対策ができていないからだ。この物価対策ができていないところに人材調達現場の悲話がある。

29 続インテリジェンスへのいざない ⑭

情報管理の実現で試される人間の情報力と管理力 今井 武

本格的なインターネット時代。玉石混交、まさにお宝情報も満載されていれば、偽造情報も満杯だ。中には、悪意に満ちた捏造情報、迷惑情報も多い。すべての情報が正しいとは限らない。しかも飛び交う情報の流量も速度も増加するばかりである。情報管理の思わぬ落とし穴がここにある。情報管理の目的は、情報漏えい対策だと勘違いするむきもあるようだが、情報管理とは、正しく情報を活用することにある。前回も指摘したことだが、正しい情報管理を担う人間力には、技術としての情報管理力だけでなく、情報を分析し活用する情報処理力が含まれる。そして情報管理を成功に導くカギは、情報管理に携わる関

係者の信頼関係である。人間としての信頼関係のない情報管理は、情報漏えいなど不幸な事件を起こす。

3 2 IT 新時代とパラダイム・シフト

第 17 回 ウィキリークス事件で問われる

米政府のインテリジェンスのあり方 根本忠明

昨年のウィキリークスによる公電暴露活動が、世界の注目を集めたのは何故か。また、世界最強の国家権力に対して、対等に渡り合えているのは何故か。それは、ウィキリークスが単なる暴露支援サイトではなく、信頼し得るメディアとしての機能を備え、様々な支持者を獲得しているからに他ならない。ウィキリークス事件で告発されるべきは、むしろ、内部告発の温床を作り出した米政府のインテリジェンス活動の矛盾にあると、言うてよいのではないだろうか。

3 6 一味違うウェブ検索

第七話 白書を読む

ぐうのうえぶへい

前号で、官公庁、地方自治体のウェブサイトアクセスすることで、生の一次情報を得ることができることを指摘した。その中で特に重要な資料が、新聞やTVなどマスコミがニュースとして取り上げる白書である。この白書の取り上げ方は、マスコミによって違う。白書をウェブで直接閲覧し、海外からの白書への言及も含めて比較すれば、一味違う情報の入手が可能になる。

3 8 連載 ことわざ笑タイム

すぎやまちヒロ

お知らせ

求む！ ヒーローズクラブ入会希望者

「We are the HEROes」

ヒーローになろう

日本、世界中に漂う閉塞感を打破するために何が必要か

思い切り自由に、大胆になって、元気が出るクラブ

詳しくは

cr-info@jmsi.co.jp

まで

セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで
株式会社 日本経営科学研究所
ComputerReport編集部

cr-info@jmsi.co.jp

CR 選書のご案内

CR選書

改訂版
データ・ウェアハウス

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300) A5版 289頁

石井 義興 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスのサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの構造と	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネストド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

実践データ・ウェアハウス
OLAP

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構造
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

消費者行動論

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 181頁

田原文夫 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

aism 研究活動報告
インターネットセキュリティの
落とし穴

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修
aism情報セキュリティ・マシントリニティ研究会 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除
第二章 aism情報セキュリティマシントリニティ研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 悪化する電子署名方式の基本原則	第十三章 生体ネットワークのための情報オーナーの課題
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最近のインターネット防衛戦線心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2010年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！
トップ主導の
情報システム革新

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 271頁

高田 顯重 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

計量モデルの構造と解法
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 213頁

安田 聖 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分解方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

『いざ！というときの(得)広報』
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300) A5版 228頁

加藤 洋一 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売定文化企業体質
■ ニュースリリースは東方向選定	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 記事とうまく付き合うための鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

ザ・ワールドリンク
がんばれ、国際グローバルサーバー—
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300) A5版 268頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 発端	第十一章 日本開港法の謎
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米軍チーム撤退の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たな仲間
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米軍事務所移転と新たな悩み
第五章 FJO、IBM戦争	第十五章 開港フル稼働とJ/Nシステム
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番稼働日誌
第八章 米軍チーム立ち上りの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働その一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米軍チーム、異なる三人組	第二十章 稼働その二 安定期間と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp